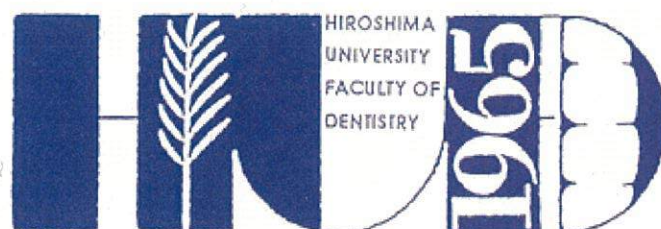


広島大学歯学部外部評価報告書



平成 24 年 3 月

広島大学歯学部

目 次

はじめに（広島大学歯学部長 高田 隆）	・ ・ ・ ・ ・ 1
広島大学歯学部外部評価委員	・ ・ ・ ・ ・ 2
広島大学歯学部外部評価項目別評価結果	・ ・ ・ ・ ・ 3
広島大学歯学部外部評価項目別意見及び 外部評価結果に対する今後の方策	・ ・ ・ ・ ・ 4
広島大学歯学部外部評価実施概要	・ ・ ・ ・ ・ 25
おわりに（広島大学歯学部評価委員会委員長 丹根 一夫）	・ ・ ・ ・ ・ 29

はじめに

日頃より広島大学歯学部活動に対しましてご理解とご支援を賜りまして心より感謝申し上げます。

さて、広島大学歯学部は昭和40年に開設し、今日まで我が国の歯科医学・医療分野の基幹的教育研究機関として、歯科医学教育ならびに歯科医学研究に携わって参りました。

平成16年に国立大学が法人化するに当たって、自ら中期目標・計画を策定し、これに即して立案した年度計画を遂行して参りました。法人化前と較べて、到達目標が明確となり、いわゆるPDCAサイクルを活用する環境が整備されました。評価については、第一期中期目標・計画期間(平成16-21年)ならびに第二期中期目標・計画期間を通して、毎年、学長や経営協議会外部評価委員による評価をいただくとともに、平成19年と21年には大学評価・学位授与機構による評価も頂戴しました。また、これらの学部外からの評価に加えて、平成21年には歯学部内の評価も行い、学部内外からの評価結果をもとにして、本学歯学部の理念として掲げる、「高度な医療技術と学識、豊かな人間性を備えた歯科医療人の育成」と「国際的に活躍できる、歯科医学・口腔健康科学分野の教育者・研究者の養成」を具現化するために、教育、学生支援、国際交流、研究、運営組織など各方面にわたる絶え間ない改善と改革をはかって参りました。

そこで、この度の評価では、さらに、クライアントニーズの視点からの評価を受けることによって、これまでとは違う視点からの評価に基づく改善を計画いたしました。歯学部のクライアントとして、卒業生の主な受け入れ先であり、研究成果の利用者である、歯科医師会、歯科衛生士会、歯科技工士会、同窓会ならびに一般市民の代表の皆様に加え、教育の需要者である歯学部の学生や後援会の代表に評価委員となっていただきました。

評価委員の皆様には事前に膨大な資料に目を通していただきますとともに、歯学部へ足を運んでいただき長時間にわたる施設見学や質疑応答にご参加いただき、心より感謝申し上げます。また、評価のための資料作成には、丹根委員長をはじめとする歯学部評価委員会の皆様や歯学部長室のメンバーさらには歯学部事務の皆様にご多大ご尽力をいただきました。おかげさまで、これまでの評価とは異なるご指摘も多数いただきました。今回の評価でご指摘いただきました項目についてさらなる改善を重ね、広島大学歯学部求められるsocial responsibilityを果たして参る所存です。

平成24年3月

広島大学歯学部長

高田 隆

広島大学歯学部外部評価委員

氏 名	所属・職	区 分
関野 憲三	広島県歯科医師会副会長	広島県歯科医師会代表
浮田 瑞穂	広島県歯科衛生士会会長	広島県歯科衛生士会代表
藤田 一朗	広島県歯科技工士会会長	広島県歯科技工士会代表
佐々木 元	広島大学歯学部同窓会長	広島大学同窓会（卒業生）代表
脇 秀典	広島大学後援会会長	広島大学後援会（PTA）代表
城本 健司	広島筆産業株式会社 代表取締役社長	一般市民（有識者）代表
竹田麻莉子	広島大学歯学部歯学科 5年	広島大学歯学部歯学科学生 代表
小倉 早妃	広島大学歯学部口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻 3年	広島大学歯学部口腔健康科学 科（口腔保健学専攻）学生代表
中ノ堂まゆみ	広島大学歯学部口腔保健学科 口腔保健工学専攻 3年	広島大学歯学部口腔健康科学 科（口腔工学専攻）学生代表

※平成 21 年 4 月より、口腔保健学科から口腔健康科学科へ名称変更

※平成 22 年 4 月より、口腔保健衛生学専攻から口腔保健学専攻へ名称変更

口腔保健工学専攻から口腔工学専攻へ名称変更

広島大学歯学部外部評価・項目別点検表

評価項目	きわめて優れている (5)	優れている (4)	普通 (3)	劣っている (2)	きわめて劣っている (1)	平均	項目別評価
I 歯学部全体の全体像							
1. 理念・目標	6名	3名				4.7	きわめて優れている
2. アドミッションポリシー	5名	4名				4.6	きわめて優れている
3. これまでの組織改革等	3名	6名				4.3	優れている
4. 運営体制	3名	5名	1名			4.2	優れている
5. 将来構想	2名	7名				4.2	優れている
II 教育							
1. 教育の理念・目標	5名	4名				4.6	きわめて優れている
2. 実施体制	3名	6名				4.3	優れている
3. 教育内容・方法	2名	7名				4.2	優れている
4. 教育の成果	3名	6名				4.3	優れている
5. 進路・就職の状況	3名	4名	2名			4.1	優れている
6. 学生支援	2名	5名	2名			4.0	優れている
III 研究							
1. 研究の理念と目標	4名	5名				4.4	優れている
2. 機器・設備	4名	5名				4.4	優れている
3. 実施体制	4名	5名				4.4	優れている
4. 成果	6名	3名				4.7	きわめて優れている
IV その他							
1. 社会連携, 産学官連携	6名	3名				4.7	きわめて優れている
2. 国際交流	3名	6名				4.3	優れている
3. 社会への情報発信	5名	4名				4.6	きわめて優れている

広島大学歯学部外部評価項目別意見及び 外部評価結果に対する今後の方策

I 歯学部の全体像

1. 理念・目標

【評価できる点】

- 理念・目標にそれぞれの3つの項目の目標は良いと思う。
- 独立法人の機能として十分な条件を満たしている。
- 地域振興の拠点として、国民の要請に答えている。
- 理念・目標が明確であり、学研活動だけでなく「地域医療への貢献」も掲げている点は評価できる。
- 言葉がわかりやすくなった。「平和」を入れる所は、とても広島の特徴を押し出している良い。
- 国際的に活躍できる人材の養成というのがすごいと思う。
- 広島にある大学なので、一番に平和を項目にあげている所がとても良いと思う。

【指摘等された点】

- 大学の理念・目標は優れているが、学生に対し、どうモチベートするか検討して欲しい。中には目的意識の薄い学生もいると思う。

<今後の対応策>

入学時オリエンテーション、2年時オリエンテーション、学生との懇談会等のあらゆる機会を捉えて、大学の理念と目標を再確認するとともに、今後は学生に対する定期的なメールの発信や例えば学部長ブログのような学生によりなじみやすいメディアを用いたモチベーションの高揚を図ります。

【指摘等された点】

- 国際的に活躍できるとあるが、歯科医師・歯科技工士・歯科衛生士免許は、世界で通用するものなのでしょうか？

<回答>

国によって通用性に違いがあります。今後 ASEAN における相互認証や TPP などのグローバル化が進むと通用性は拡大すると考えられますので、これに備えて広島大学歯学部学生の意識と能力の向上を目指す必要があると考えています。

【指摘等された点】

○国際的に活躍できる人材の養成とあるが、その結果、今までにどのような活躍をしている人がいるのか知りたい。

<回答>

一流国際誌に質の高い研究論文を発表したり、国際学会における講演に招聘されるなど、国際的に活躍できる人材を多数輩出するとともに、国際学会の会長を務め、国際学会をリードする人材もいます。また、フォーサイス研究所やミシガン大学等で教授あるいは准教授として教育研究に関わったり、アジアを中心とした学術交流協定校での教育に関わる卒業生が多数います。さらに、いまだ数は少ないものの広島大学歯学部卒業生で、アメリカ、シンガポール、ベトナム等で開業したり勤務するものもいます。

なお、現在、アイルランガ大学歯学部（インドネシア）とホーチミン市医科薬科大学歯学部（ベトナム）に、広島大学歯学部との共同研究室を設置し、それを拠点とした人材育成の中で本学卒業生の教育研究臨床各方面での国際的活動の輪を広げることを計画しています。

2. アドミッションポリシー**【評価できる点】**

- 機能別に教育拠点として、歯学科と口腔健康科学科との連携により幅広い高度な職業人の養成に努めている。
- 医療人は、こうあって欲しいという学生が求められていて、自分が患者であるなら、このような人達に看てもらいたいと思う。
- 人間性を大切に、加えて教養を持った人を求めていることが分かりやすく良いと思う。

【指摘等された点】

○このポリシーを、学生にも良く理解させるような方策を考えて欲しい。

<今後の対応策>

入学試験ではAO入試、前期日程、後期日程のすべてで、面接あるいは面接と小論文を課しており、これらの評価基準はアドミッションポリシーとほぼ一致しています。従って、入学生のほとんどはアドミッションポリシーを理解し、それに沿った人材であると考えられますが、入学時オリエンテーション、2年時オリエンテーション、学生との懇談会等のあらゆる機会を捉えて、アドミッションポリシーを一層理解させるように努力します。

【指摘等された点】

○教員にも、このポリシーを十二分に頭に入れて教育に当たって欲しい。

<今後の対応策>

面接及び問題作成に関わる教員は、アドミッションポリシーを十分理解しております。その他の教員については、教職員連絡会を含むFDで、アドミッションポリシーを理解させるように努力します。

【指摘等された点】

○入学受入れ方針の明確化は理解できるし、高度な学識は絶対に必要と思うが、医療人として適正を備えた人材（学生）の確保の期待をしたい。

<今後の対応策>

入学試験ではAO入試、前期日程、後期日程のすべてで、面接あるいは面接と小論文を課しており、これらの評価項目には医療人としての適性も含まれています。また歯学科の前期日程では、面接で医療人としての適性を欠くと判断された場合は、センター試験や数学、理科等の個別学力検査の成績にかかわらず不合格となります。従って、現状でも医療人として適正を備えた人材（学生）がほぼ確保できていると考えています。

【指摘等された点】

○現行の大学入試制度で、ポリシーを満たす学生が、入学してくるのかどうか。

<回答>

入学試験ではAO入試、前期日程、後期日程のすべてで、面接あるいは面接と小論文を課しており、これらの評価基準はアドミッションポリシーとほぼ一致しているだけでなく、総合点に占める配点の比重がかなり高くなっています。一方、AO入試ではセンター試験で基準点を設定し、基準点以下の受験生は不合格となります。前期日程および後期日程で基準点は定めていませんが、AO入試の基準点以下の受験生で合格する者はほとんどいません。従って、基礎学力も担保されており、ほとんどの入学生がアドミッションポリシーを満たしていると考えています。

【指摘等された点】

○選択方針は明確であるが、学力以外の項目をどのように評価・判断するのは疑問。

<回答>

アドミッションポリシーのうち、学力以外の項目は出願書類、面接あるいは面接と小論文で評価しています。これらの問題作成と評価方法にあたっては、毎年委員会で十分検討・協議を重ねて決定しています。

3. これまでの組織改革等

【評価できる点】

- 国際歯学コースの取り入れは良いと思う。
- 積極的な国際交流と国際貢献活動を推進している。(国際歯学コースの設置)
- 将来的に母国の研究，臨床に貢献できる人材の育成。
- 他校に先駆けて口腔保健学科や国際歯学コースの設置を行い，時代の流れに素早く対応している。
- バイオデンタル教育など次世代の歯科医療に対する授業が組み込まれているのが魅力的だと思う。
- 国際歯学コースで学生を受け入れ，学生の内から国際化に目を向けられて良い。

【指摘等された点】

- 国際歯学コースは歯学科だけでなく，口腔健康科学科にも是非導入していただきたい。

<今後の対応策>

グローバル化対応能力の育成にむけて国際歯学コースのコンセプトとシステムを口腔健康科学にも取り入れるようにします。

【指摘等された点】

- 時代にあわせて、どんどん組織改編して下さい。

<今後の対応策>

歯科医学医療の方向性についての情報をもとに予測を入念に行い，時代に対応した改革を進めます。

4. 運営体制

【評価できる点】

- ミッションの明示と不断の改革を実行して情報開示を進め，説明責任を充分に実施している。
- 学部長会議の設置による迅速な意思決定体制は評価できる。
- たくさんの運営体制で歯学部は成り立っていることがよく分かった。
- 管理運営体制が細分化されており，より細かい所まで話しが出来るので良いと思う。

【指摘等された点】

なし

5. 将来構想

【評価できる点】

- 理念と目標達成のための構想は優れている。
- 第2期中期目標を提示し、大学の特性を活かした個性の明確化に努めている。
- 国際歯学コースの開設等国際化に向けた将来構想は高く評価できる。
- 年々良い歯科医療従事者が生まれていくように思え、とても良いと思う。
- 細かく書かれていて良いと思う。

【指摘等された点】

- AO入試選抜方法の変更とは、今後、廃止ですか？

＜回答＞

従来の経緯を踏まえ、平成25年度入試より多少の改善を行い、今後もAO入試は継続する予定です。

【指摘等された点】

- 口腔健康学科の卒業後の進路が大切である。(海外も含めて)

＜今後の対応策＞

現在のところ、口腔健康科学出身者で海外に就職したものはいませんが、将来的には海外で歯科衛生士や歯科技工士教育や現場で歯科医療に携わる者も出てきてほしいと思っています。また、卒後の進路としては、歯科衛生士学校・歯科技工士学校の教員、国公立病院および一般歯科医院の歯科衛生士・歯科技工士だけでなく、歯科企業、一般企業、行政への進路指導も行っており、実際に製薬企業や食品関連企業、行政機関への就職もしています。今後、同窓として今までにはない大きなネットワークを築くことで歯科医療界にも大きな貢献をしてほしいと願っています。

【指摘等された点】

- 英語教育によって日本語による国試対策が悪化、劣化しないようにお願いしたい。

＜今後の対応策＞

卒業生の全員が国家資格を得ることは歯学部の大目標としてあげています。グローバル化対応の教育と国家資格を得るための基本的教育とは対峙するものではないと考えています。従って、英語と日本語による教育を実施しても、国家試験合格率の低下にならないよう細心の注意を払います。

【指摘された点】

○入学時の学生の学力が低下して来ているとのことだが、歯科医師国家試験は将来難しくなることはあっても、容易になることはないと考える。したがって、学力のない学生を歯学科に入学させることは、卒業しても歯科医師免許を持ってない人が出てくる可能性が出る。入学時学力が不足した学生は、定員の53人に達していなくても入学させるべきではないと考える。

<今後の対応策>

歯学科の定員管理は国ならびに大学の方針に大きく依っていますので、容易に変更できるものではありませんが、入試のあり方ならびに適正な定員については、国家試験の難易度や合格率を勘案するだけでなく歯科医療人のあり方を基本に中期計画（6年）の中で検討します。検討の結果は、その都度公表し、速やかに実施に移します。

II 教育

1. 教育の理念・目標

【評価できる点】

- 大学（広大）の理念・目標に沿って、人材の育成、学術研究を強力に推進している。積極的な国際交流に備えて環境整備に努めている。
- バイオデンタル教育のより一層の推進と国際化への対応を図っておられ、目標の高さが感じられる。
- 国際的に活躍できる人材の養成というのがすごいと思う。
- 後期試験の廃止などにより志の高い学生が入ってこられるようになって良かったと思う。

【指摘等された点】

- AO入試の必要性について、検討して欲しい。

<今後の対応策>

現在実施しているAO入試（総合評価方式Ⅱ型）は、センター試験を課して基礎学力を担保すると共に、歯科医学・医療あるいは口腔健康科学に関心の高い学生を受け入れる選考を行っています。従って、歯科医学・医療や口腔保健及び福祉の分野で、人と社会のために貢献する強い意志を持つ人材を育成するため、今後も継続することが必要と考えています。

【指摘等された点】

- 今後も「次世代型歯科医療」を目指して高度な質の歯科医師、及び口腔健康科学科の歯科衛生士・歯科技工士の教育・人材育成に期待したい。

<今後の対応策>

平成24年度の2年次生からバイオデンタル教育を必修単位化すると共に内容の充実を図り、「次世代型歯科医療」を理解し、将来は実践できる人材の育成により一層努める予定です。

【指摘等された点】

- より国際化を進めていただきたい。

<今後の対応策>

平成24年度の歯学科2年次生から、国際歯学コースの学生と共に専門コアカリキュラムのほとんどの授業科目を英語と日本語の2カ国語で受講します。また留学生の受け入れ、在学生の海外留学を一層推進し、国際化を進める予定です。

【指摘等された点】

○国際的に活躍できる人材の養成というのがすごいと思うが、それが具体的にどのように行われているのを知りたい。

＜今後の対応策＞

- ・平成 18 年より隔年で歯科医学の教育と研究に関する国際カンファレンスを開催し、学生の発表及び出席を推奨しており、今後も同様の企画を継続していく予定です。
- ・平成 24 年度から国際歯学コースを正式に開校し、日本人学生はアジアからの留学生と共に英語と日本語の 2 カ国語で専門教育を受ける予定です。
- ・歯学部国際交流支援金および日本学生支援機構の留学生交流支援制度等を利用した学生の海外留学および海外からの留学生の受け入れを行っており、今後も継続する予定です。
- ・平成 23 年度入学生から教養教育における英語の単位数を増加し、バイオデンタル教育の一部として実践専門英語を開講しています。また、卒業時の英語能力の到達目標を設定し、学生の英語運用能力向上を目指しています。

2. 実施体制**【評価できる点】**

- 両学科の共通科目としての授業開講体制は良い。
- 両学科共通科目は評価できる。
- 平成 20 年より従前の委員会を廃止あるいは WG へ移行し、簡素化し、役割の明確化に努めている。
- 歯学科、口腔健康科学科ともに大学院教育でより高度な教育を担っておられる点は評価できる。また、歯学科については、2 コース制を導入して、世の中の多様化に対応できる体制になっている。
- 歯学科がコース制になっているのが面白いと思う。
- 教員数が増えて良かった。(口腔健康科学科)
- 両学科が一緒に授業が出来て、より多くの刺激を感じられて良いと思う。

【指摘等された点】

○臨床経験が不足しているのをどう補うかを検討して欲しい。特に臨床歯科医学コースの学生に対して。

＜今後の対応策＞

- ・「臨床実習ありがとう通信」を発行する等により、患者さんの臨床実習に対する理解を深め、協力して頂けるよう継続的な努力をしています。
- ・平成 25 年度に大学病院の新中央診療・外来棟の竣工・移転により病院歯科領域における実習形態の変更を余儀なくされており、臨床経験の不足を補うべく、相互実習を行う等の

対応策を現在検討中です。

・臨床歯科医学コースにおける教育内容は高度な診療内容を含んでおり、学生が臨床実習として行うことは無理があります。なお、最先端歯学研究コース、臨床歯科医学コースのどちらのコースを選択しても、臨床実習の内容は同一で、実習に支障の無いよう共通コアカリキュラムで教育を行っています。

【指摘等された点】

○教養の部分である「芸術学」の削除はいかがでしょうか？微積，代数と同時に必要と考えます。

<今後の対応策>

口腔健康科学科口腔工学専攻の授業科目でした。本来、歯科技工士養成のために美術などは非常に必要な科目ですが、現在開講されている芸術学は、音楽に関する授業のため、専門で美術や造形と関連した別の科目を開講しています。

【指摘等された点】

○文系の学部や他のサービス業対比では、学生数に対する教員数は多すぎる。独立採算を目指す体制づくりが将来的には必要と感じる。

<今後の対応策>

優れた医療人育成のためには、他の分野に比べて多数の指導教員が必要であり、現状で教員が多すぎるということはありません。国立大学の独立採算については、国および大学全体の問題ですので、歯学部独自の回答は差し控えさせていただきます。

3. 教育内容・方法

【評価できる点】

- Bio-Dental 教育の推進に努め、次世代型歯科医療の養成に対応している。
- チュートリアル教育及び Web-CT を取り入れて、教育を身につく方法を使用している点は評価できる。
- 将来に関係するような授業ばかりでカリキュラムが組まれていて無駄がなく良いと思う。

【指摘等された点】

○国際化からみると、英語教育に今少し比重を置いたらどうか。実践専門英語演習が開講されたのは評価できるが、通常の講義の中にも一部取り入れたらどうか。要はヒアリングが重要と思う。

<今後の対応策>

平成 24 年度の歯学科 2 年次生から、専門コアカリキュラムのほとんどの授業科目を英語と日本語の 2 カ国語で実施する予定で、学生のヒアリング能力は向上すると考えています。また、国際歯学コースの学生と勉強以外でも交流することも効果的と考えています。

【指摘等された点】

○様々な観点から授業内容の変更・削除は良いと思うが、歯科衛生士の立場としてはニーズに応じて臨床・臨地実習時間を増やす事の検討を望みたい。

<今後の対応策>

臨床・臨地実習は、3 年生 10 月より開始し、4 年生の 11 月末までの 1 年 1 か月行っており、非常に充実していると考えています。また、養護教諭の課程を選択したもの（クラスの半数）は、これに加えて小学校・中学校における保健活動も行っており、他校に比べてはるかに充実した臨床・臨地実習を行っています。

【指摘等された点】

○教養のない歯科医療人が増えないようにお願いしたい。

<今後の対応策>

平成 23 年度の新入生から口腔健康科学科では教養教育の単位数を増加しました。歯学科では教養教育の期間が半年間短縮されましたが単位数はそのままとしました。両学科とも教養教育の充実のためのカリキュラムを組んでいます。

【指摘等された点】

○他学科との合同授業があるが、ただ一緒にの教室で授業を受けるだけなので、チーム医療での協力体制の重要性の認識にどうつながるかなと思う。

<今後の対応策>

合同授業だけではなく、教養ゼミ、バイオデンタル教育ならびに一部の共通授業科目（コミュニケーション学、医療倫理学等）では、両学科混成のチームで演習あるいは実習を行っており、協力体制の基礎作りと重要性の認識につながっていると考えています。

4. 教育の成果

【評価できる点】

- 多くの学会賞の受賞や、国家試験の全員合格報告と国際交流に対応できる TOEIC の成績など英語演習の成果と考えられる。
- 5 年生での CBT,OSCE での不合格者はほとんどいない。
- 平成 23 年度国試では合格率 100%を達成している。

- 授業評価のアンケートも実施しており、教員へのフィードバックも行われており、学校・教員側の向上心も伺われる。
- 歯科国試合格100%はすごいと思う。
- 口腔健康科学科の国試の合格率が100%というのが魅力的。
- 口腔健康科学科の毎年全員国家試験合格は素晴らしいと思う。

【指摘等された点】

- 授業評価アンケートの回答率をもっと高めて頂きたい。

<今後の対応策>

学期末には各授業担当教員から、学部長からは学生との懇談会等で授業評価アンケートに回答するよう指導しています。教員に対してもアンケートの質問に回答するよう要請しており、今後もアンケートの回答率を高めるためのこのような努力を続けていく予定です。

【指摘等された点】

- 卒前の参加型臨床実習を実施するには、来院患者が減少している。

<今後の対応策>

大学病院歯科領域の来院患者数はここ数年漸増していますが、理想的な卒前の参加型臨床実習を実施するためには未だ不十分です。「臨床実習ありがとう通信」を発行する等により、患者さんの臨床実習に対する理解を深め、協力して頂けるよう努力を続けています。

【指摘等された点】

- 国試浪人した人の対策が知りたい。

<回 答>

毎年国家試験合格者発表後、不合格者と連絡を取り、学部長等が面談を行って助言しています。また、卒業生の希望に応じて、大学院生、科目等履修性、研究生として受け入れ、勉学の間を提供すると共に、情報の共有に努めています。

5. 進路・就職の状況

【評価できる点】

- 大学院への進学、企業・病院への就職が進んでおり評価できる。
- 衛生士・技工士だけでなく様々な職業につけるのが面白いと思う。
- 工学は毎年それぞれ進路が変化しますが、他は一貫して病院勤務したいと考えているのはすごいと思う。
- 平成22年度には全員が研修医になっている。

【指摘等された点】

○大学院が充実しているのは理解できるが、口腔健康科学科の場合、修士課程修了者の就職が難しいのではないか。これについても、学生への情報提供、指導を十分にしたい。

<今後の対応策>

現在、大学院博士課程が、学年進行中であり、連携講座などを設けることができないが、学年進行終了後には、他機関、他大学、企業について連携講座とし、人的交流および研究交流を学部でも行い、より充実した形に発展させていきたいと思います。

また、本学科の卒業生は少なく、企業就職などの Know-how が少ないため、ゼミごとに、就職の決まった先輩が後輩に対して、マイナビ、リクナビへの登録方法、エントリーシート の書き方、就職活動する際にどのような注意が必要か、実際に就職活動にはどのくらいのお金がかかるか、ウィークリーマンションの活用、企業面接への対応、自己分析と他己分析の仕方などについて講義をするようにしているが、今後企業に就職した先輩たちによっても、ゼミで話す機会を設けることでより一層充実させていきたいと思います。

【指摘等された点】

○歯学科は、100%研修医とあるが、研修終了後のデータも必要ではないでしょうか？

<今後の対応策>

卒業生の約半数が広島大学病院以外の研修期間で卒直後臨床研修を行うため、学部として十分な研修終了後のデータを得ることは困難な状況です。今後は同窓会との連携を緊密にして、卒業生の動向の把握に努める予定です。

【指摘等された点】

○口腔工学の学生は一般企業にも進路があるので、就職の後押しができれば良い。

<今後の対応策>

歯科技工士以外にも職を選べるようにと、将来の進路に広い視野を持たせるために、口腔工学概論を開講し、外部機関の講師の講義を取り入れています。さらに3年生ではキャリアセンターの講義、外部企業（花王、ライオン、P&Gなど）からの非常勤講義を設けています。また、歯科以外の学会において、学会発表なども積極的に行わせ、人的交流をすることを促すとともに、企業（デジタルソリューション、エーザイ、ジェクスなど）数社との共同研究も行っており、研究に関わっている学生は、常に企業とのディスカッションにも参加をさせています。

今後、企業就職をした先輩たちを通じて企業との交流を深めていきたいと考えています。

【指摘等された点】

○意見でなく、歯科衛生士が第一希望とする就職先を知りたい。

【回答】

国公立病院の歯科衛生士です。

6. 学生支援**【評価できる点】**

- これまでと同様に学生支援を続けて欲しい。
- 学生の要望も参考にし、きめ細かい対応がされている。
- 学生生活に支障をきたさないように整備が実施されている。
- チューター制により、学生の抱えている種々の問題解決にあたっている。
- 学習環境は整っており、また課外活動も活発に行っており評価できる。
- 歯学部はオールデンタルへの参加ができるように授業やテスト日程を考慮してくれてすごうらしい。
- 休日に図書館を開放したり、学生の勉強を精一杯サポートしてくださってとてもありがたい。

【指摘等された点】

- 公共交通機関との兼ね合いもあるが、図書館は欧米の大学並みに午前0時までオープンしても良いと考える。

<今後の対応策>

22年度から、霞地区においては、国家試験との兼ね合いから、学生からの要望もあり、23時45分まで使用できることとなっています。一方で女子学生も多く、犯罪に巻き込まれる可能性もあるため、12月から3月初旬までの間のみ弾力的な運用がされているところです。

【指摘等された点】

- 精神的に悩みを抱える人に対して「カウンセラー室」があることをおした方が良い。

<今後の対応策>

新入学生及び2年次生（東広島から霞へ進級する際）に対するガイダンスにおいて、保健管理センター等の病気等に対する対応をしてくれる場所等については必ず説明を行っています。また、年2回行っていますチューターによる学生面談時にも学生の状況に応じて紹介等を行っています。

なお、欠席がちな学生等に対してもチューターや学生支援担当から直接アプローチしてできるだけ早い段階でカウンセリングを受診するよう進めるケースもあります。

III 研究

1. 研究の理念と目標

【評価できる点】

- 3学科それぞれの研究目標の達成に向けて広島大学の特異性を遂行し、学術発展の貢献を期待する。
- 中でも豊かな人間性を備えていることは重要である。
- 高度専門医療人の育成と国際的に活躍できる幅広い職業人（医療人）の養成に努めている。
- 口腔健康学科は、医歯薬学総合研究科との連携を図っている。
- 高度な医療技術の習得だけでなく、国際的に活躍できる人材の育成と地域社会への貢献を目標に掲げておられる点は高く評価できる。
- 口腔保健という新しいアプローチ、医、歯、薬そろってという理念は、本当に広大らしくて素晴らしい。
- 医歯薬があるのは、広大の強みで魅力です。
- 国際的に活躍できる歯科医学分野の教育者・研究者の養成というのがとても魅力的。
- 積極的に研究が出来るような目標だと思う。

【指摘等された点】

なし

2. 機器・設備

【評価できる点】

- 高度な機器や研究室の設備は素晴らしいと思う。
- 教育・研究組織の共同設置や設備の共同利用を推進し、機能強化を図っている。
- 約80種類の大型・中型機器を学校全体で共同利用できる体制は優れている。
また、その購入方法も明確にルール化されており、不正が働かないように配慮されている。
- たくさん機器があり、実験・研究に役立っていると思う。
- 最新の機器が設置されており、最善の方法で研究が出来るのでとても良い。

【指摘等された点】

- 学生も機器や設備を使い、機器の不具合などもよく気付くので、そのような声も取り入れたら良い。

<今後の対応策>

研究用共同利用機器は、歯学部中央研究室(林先生)の管理のもと登録制で使用しています。よって、普段からの機器の管理を行っておりスムーズな運営が行われています。ご指摘頂いた学生からの連絡体制も利用説明会の機会等を利用して周知徹底させ、円滑かつ効率の良い運営体

制を強化して行きたいと思います。

3. 実施体制

【評価できる点】

- 中央研究室に専任の助教1名を配置し、大型予算について科学研究費補助金を獲得している。
- 適正な研究室数と人員配置で、補助金や助成金の受け入れの予定もあり、体制も整っている。
- 研究しやすい体制が整っていると思う。
- 多くの研究室で幅広い知識が細かく研究できて良いと思う。

【指摘等された点】

なし

4. 成果

【評価できる点】

- 社会的貢献機能とし産業間の共同役割が、整備されている。
- QOLの分野で、他大学との連携により、予算獲得が容易になり、補完機能が実施できるようになった。
- 外部資金獲得に優れている。
- 研究実績が素晴らしいだけでなく、受託・共同研究の受入も積極的に行っておられ、高く評価できる。
- 多くの賞をもらっているかよくわかった。
- たくさんの研究が学会で発表され、賞を受賞したりして、すごいと思う。
- 多くの賞を受賞されており、素晴らしいと思う。

【指摘等された点】

- 研究成果の実用化をもっと進めて下さい。

<今後の対応策>

既に歯学部からベンチャー企業を設立した起業家からそのノウハウを伝えてもらう様な講演会を企画し、歯学部構成員や歯学部学生に対し情報を発信します。

【指摘等された点】

- QOLの向上を目指す研究は、おおいに進めていただきたい。

<今後の対応策>

QOLの向上を目指す研究のなかで、再生工学は広島大学が代表校なので特に力を入れていきたいです。特に、今後は間葉系幹細胞について歯科と医科との共同研究も進めることで、より一層の発展をさせたいと思っています。また、その研究成果についても広島カン

ファレンスや HP を通じて積極的に情報発信をし、学部一丸で邁進していきますので、応援をよろしくお願いします。

【指摘等された点】

○こんなに研究が盛んであることを学生に発信した方が良いと思う。

＜今後の対応策＞

これまでも講義の中で、最新の研究成果について発信されていますが、その機会を増やし、また、歯学部のパフレットや大学の HP、メディア、広島カンファレンスなどを通じて、より多くのものを内外に継続して発信していきたいと考えています。

研究コース学生など研究室に出入りする学生を増やし、研究室単位でその情報を学生に発信していくとともに、歯学会総会や広島カンファレンス、その他歯学部主催の学会に学生を参加させることで、研究の本質に触れさせる機会を今後も増やしていきます。

歯学部で行われている研究の内容については、歯学研究特論（選択科目、4単位）で学生に紹介しています。今後もこの授業科目を開講し、内容の充実に努めていく予定です。

IV その他

1. 社会連携, 産学官連携

【評価できる点】

- 各地で公開講座を実施しているのは評価できる。
- 他大学との比較, 参照がないため, いわゆる「競争力」の判断に困った。毎年, 多くの共同・受託研究をみると将来の歯科医療に役立つであろう産学共同研究が多い。
- 受託研究, 共同研究を積極的に行っておられると共にオープンキャンパス等で地域貢献も活潑に行っておられ, 高く評価できる。
- 市民への公開講座やデンタルキッズなどは, 一般市民への口腔への興味を高めてくれるものだと思う。
- デンタルキッズなど地域と密接な関係が保てていると思う。

【指摘等された点】

- 以前実施したような, シリーズで行ったセミナーをまた実現できないか。

<今後の対応策>

検討します。専門的かもしれませんが, 履修証明プログラム※なども利用していただけるよう広報に努めたいと思います。

※履修証明プログラムとは: 社会人の学び直し, 再就職及びキャリアアップ等を支援し, それにより本学の教育研究成果の社会への提供を行い, 社会貢献という大学の基本的役割を果たすことを目的として平成21年度から開始した事業です。歯科医療関係者を対象として, 学生講義(解剖学, ME 機器学, 歯周病学, 成人・高齢者歯科学など)を聴講できます。

【指摘等された点】

- 各連携は, 研究・特許等は良いと思うが, 地域貢献で高校生・キッズに着眼する事もこれからの医療従事者確保には必要であるが, 地域住民(現在では主に高齢者)にも目を向けて欲しい。

<今後の対応策>

公開講座ではこれまでも高齢者を対象としたテーマで開講しており, 年配の地域住民の方々も多く参加されています。また個々の研究室で対応している地域貢献活動も種々にわたり, 学部全体をみると全年齢層を対象として実施していると思います。今後も様々な形式で連携を検討したいと思います。

<p>【指摘等された点】</p> <p>○県民・国民のため、今後もより一層連携を深めていただきたい。</p>
<p><今後の対応策></p> <p>頑張ります。</p>
<p>【指摘等された点】</p> <p>○産業界との連携をもっと活発に。</p>
<p><今後の対応策></p> <p>今後も各研究室の産業連携について推進していただくとともに各研究室が行っている具体的内容を広報活動に積極的に取り上げていきます。</p>

2. 国際交流

<p>【評価できる点】</p> <p>○若手研究者の多くが、海外留学研修に研鑽を図っている。定期的に東南アジアから短期間であるが、学生交流が実施されている。</p> <p>○多くの国の学生と交流ができて良い環境だと思う。</p>
<p>【指摘等された点】</p> <p>○学生・教員とも主にアジア方面が多く見られるが、今後は欧米との交流も望みたい。</p>
<p><今後の対応策></p> <p>研究科ではあるが頭脳循環プログラムが採択されました。欧米を中心とした先端研究の習得に本プログラムを活用して若手研究者を派遣し、帰国後アジアへの研究成果の還元を図る方向性で欧米、アジアの両者との交流を図っています。また、隔年開催の広島カンファレンスや大学院 GP(バイオデンティストの創生と展開)では欧米の第一線で活躍中の研究者を招聘しており若手研究者の刺激となっています。さらに欧米においても協定校を開拓中です。</p>
<p>【指摘等された点】</p> <p>○親善訪問が多いが、現地の学生と一緒にボランティア活動などしてはどうでしょうか。</p>
<p><今後の対応策></p> <p>カンボジアでの医療支援などでボランティア活動を経験させています。我が国では小児のう蝕が減少していますが、東南アジア地区では依然として口腔環境が劣悪なため、良い経験となっています。今後、インドネシアやベトナムの協定校のセンターを拠点に活動の輪を広げたいと思います。</p>

<p>【指摘等された点】</p> <p>○教員レベルの海外での学術発表や特別講演は回数・人数も多いが、若手研究者の海外派遣プログラム及び学生の派遣はあまり多くない点（期間も長くない点）は気になる。</p> <p>海外の学生の受入れは多く、今後是非続けて頂きたい。</p>
<p><今後の対応策></p> <p>若手研究者の海外派遣に関しては研究科独自の支援プログラムのほか、若手研究者海外派遣プログラムの支援を受けて定期的に行っています。学生の派遣に関しても本プログラムに加え、学部として国際交流基金を設立し、春・夏の2回学生派遣を促しています。さらに本年は学生支援機構のSS・SVプログラムにも採択され派遣、受入れに活用しています。国際交流基金による支援では、特に英語教育に力を入れており、TOEIC成績優秀者にはインセンティブを与えています。前述の頭脳循環を活用し、長期派遣も促したいと思えます。</p>
<p>【指摘等された点】</p> <p>○短期留学の話を「もみじ」に載せてはどうか？</p>
<p><今後の対応策></p> <p>短期留学者で国際交流基金の支援を受けたものについては報告書の提出を義務付けていますが、今後もみじへの掲載を検討したいと思います。他の学部生のモチベーションも上がると期待されます。併せて、国際歯科医学連携開発学講座ホームページに報告を掲載する予定です。</p>
<p>【指摘等された点】</p> <p>○外国人と交流するのは本当に良い経験です。もっと推進して欲しい。</p>
<p><今後の対応策></p> <p>歯学部は国際交流を促進する方向性を明確にしており、国際歯学コース設立、国際歯科医学連携開発学講座の設立、交換留学の推進、国際カンファレンスの定期開催、などを通して一層推進する予定です。</p>
<p>【指摘等された点】</p> <p>○ちょっとアジア人に偏っているかもしれません。</p>
<p><今後の対応策></p> <p>前述したように欧米の先端研究を若手に習得させる頭脳循環欧米ループとその成果をアジアに還元するアジアループの二つのループを軸に国際化を推進しており、決してアジアにのみ偏っているわけではありません。</p>

【指摘等された点】

○他国の学生と一緒に授業を受けることがほとんどなかったので、同じ授業を受けたりして交流してみたい。TOEIC は、ただ受験するだけという学生が多いと感じるので、英語能力の向上に役立っているのかよく分からない。

＜今後の対応策＞

国際歯学コースを設立し、日本人学生とアジア人学生が同じ授業を受ける試みが始まりました。また、協定校からの短期留学に際しては、広島大学の講師陣が日本人学生を交えた英語による特別講義をすでに行っています。

指摘されたように TOEIC は一つの通過点であり我々は Beyond TOEIC を念頭において国際化を推進しています。

3. 社会への情報発信**【評価できる点】**

- HP、新聞、テレビ、ラジオ等多くの情報が発信されていると思う。
- 新聞報道等での「歯の銀行」「虫歯と歯周病抑制のヨーグルト」の報道が図られ、市民への口腔衛生向上に寄与している。
- 高大連携公開講座やデンタルキッズプロジェクトを通して歯科医療への人材発掘に努めている。
- HP は充実しているし、新聞報道等も積極的に行っておられ、情報発信は優れている。
- 高校生にとっては、進路を決める材料になるし、受験のモチベーションにもつながる。
- 新聞やテレビで取り上げられていることは、一般市民の人達に広大な歯学部活動や「歯科」について知ってもらえる大きなチャンスなので、とてもよいと思う。
- 広報誌は学生が作成しているものもあり、とても良いと思う。

【指摘等された点】

- マスメディアでの最新報道は今後も続けて欲しいが、紙面では誰もが理解できるような文章に願いたい。(県民の声として・・・)

＜今後の対応策＞

記事にさせていただく際には、平易な表現になるように担当者に努めていただきます。

【指摘等された点】

○地域での貢献，公開講座をもっと増していただきたい。

<今後の対応策>

地域貢献，公開講座の機会を設けるよう検討したいと思いますので，より一層のご支援をお願い致します。公開講座のテーマや開催場所など，ご意見やご希望を聞かせていただければ参考にさせていただきます。

【指摘等された点】

○医科の特集は多いけど，歯科の特集があまりないので，広大が中心になって，もっともっと歯科のことを伝えたら良いと思う。

<今後の対応策>

広大歯学部関連の広報の割合は比較的多いと思いますが，歯科の重要性を伝えられるようさらに努力します。

外部評価実施概要

1. 評価の目的

広島大学歯学部現状（教育、研究、運営等）について、歯学部のユーザー、カスタマーの立場の委員から外部評価を受け、その評価意見を基に改善点等を明確にし、本学部のさらなる発展・充実を図るため。

2. 外部評価者

- (1) 広島県歯科医師会から代表者1名
- (2) 広島県衛生士会から代表者1名
- (3) 広島県技工士会から代表者1名
- (4) 広島大学歯学部学生（歯学科、口腔保健学専攻、口腔工学専攻から各1名）
- (5) 広島大学歯学部同窓会から代表者1名
- (6) 広島大学歯学部後援会から代表者1名
- (7) 一般市民（有識者）

3. 実施時期

平成23年8月30日

4. 評価対象期間

評価項目によるが、評価資料は、原則、平成20年度～22年度最新の状況が分かる資料は、この限りでない。

5. 評価方法等

- (1) 評価資料を事前に配付。
- (2) 外部評価委員会当日は、施設見学及び評価項目毎に現況説明を行い、ヒアリングを実施。
- (3) 各評価委員は、外部評価委員会終了後、評価シートに項目毎に評価点および意見を記入し、提出。
- (4) 各委員からの評価結果及び意見を基に、歯学部評価委員会において評価報告書をまとめる。

6. 評価資料

◆主資料

広島大学歯学部外部評価資料（※評価項目毎に資料を作成）

- I 学部の全体像
- II 教育
- III 研究
- IV その他

◆共通資料

- (1) 平成 21 年度版歯学部第 1 期中期目標・中期計画
- (2) 平成 21 年度歯学部自己点検・評価報告書
- (3) 平成 23 年度版歯学部第 2 期中期目標・中期計画
- (4) 大学院医歯薬学総合研究科（歯学分野）及び
広島大学病院（歯科領域）教職員名簿
- (5) 広島大学歯学部 Guide Book2008～2011
- (6) 平成 22 年度広島大学歯学部・広島大学病院・
広島大学大学院医歯薬総合研究科概要
- (7) 平成 22 年度学生便覧
- (8) 平成 23 年度シラバス
- (9) 平成 23 年度時間割
- (10) 研究業績年報 2008～2010
- (11) 広島大学歯学部次世代の歯科医療を拓くバイオデンタル教育
パンフレット及び平成 22 年度実施報告書
- (12) 広島大学大学院医歯薬学総合研究科パンフレット

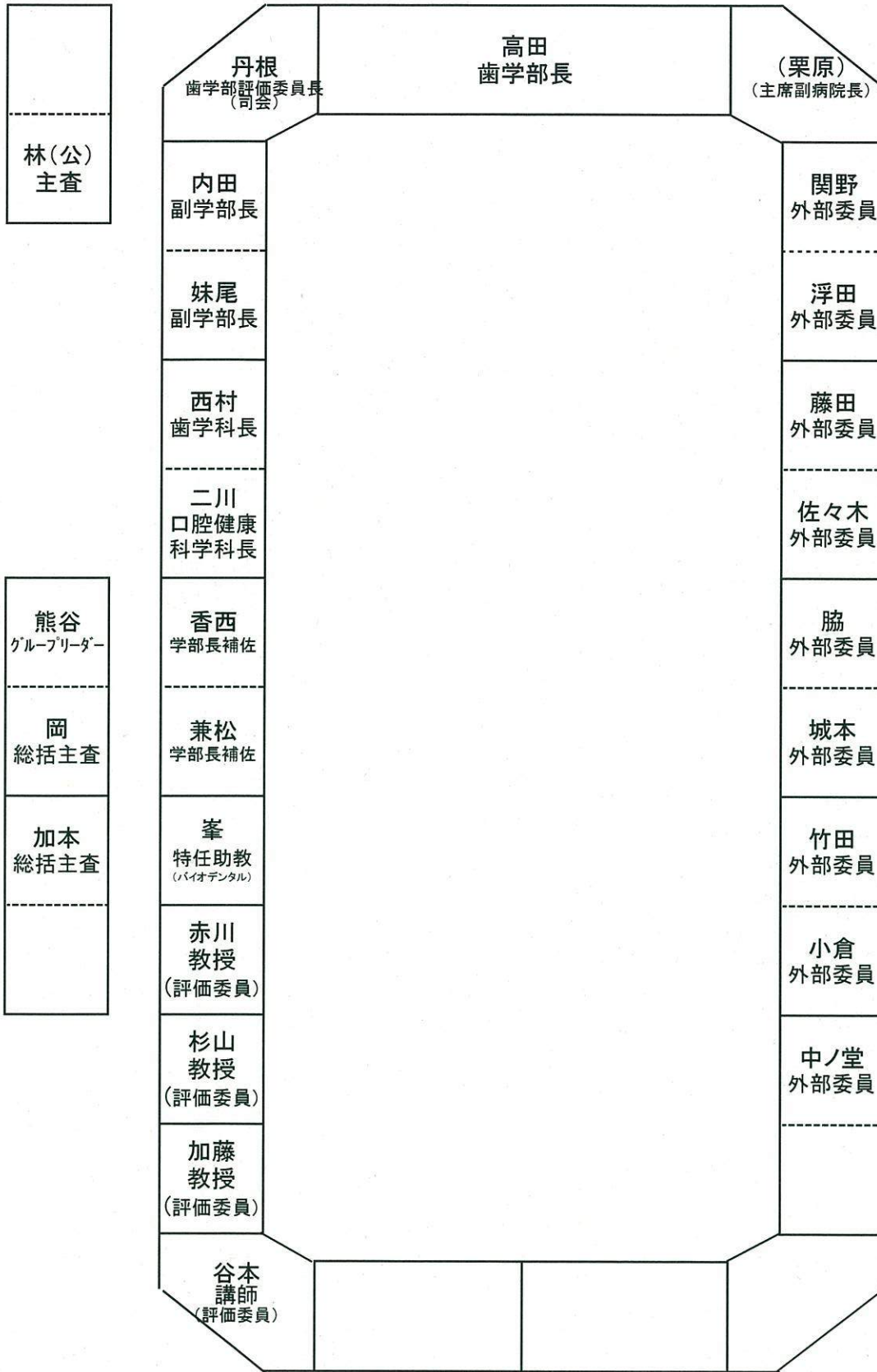
7. 外部評価委員会日程概略

期日：平成23年8月30日（火）

場所：広島大学歯学部大会議室

時間	項目	備考
11:00～ 11:15～	挨拶 施設視察 (学部) <口腔健康科学科> ① デンタルスキルスラボ4 (歯学部B棟6F) ② 組織培養実験室 (歯学部B棟4F) ③ 第3講義室 (歯学部B棟3F) <歯学科> ④ デンタルスキルスラボ1 (歯学部B棟3F) <共通> ⑤ チュートリアル室 (歯学部B棟1F) ⑥ 中央研究室 (歯学部A棟7F) (病院) ⑦ 細胞培養室, 細胞移植治療室 (歯学部A棟4F) ⑧ 口腔検査センター (歯学部A棟4F) ⑨ 口腔総合診療科 (歯学部A棟3F) ⑩ クリーンルーム (歯学部A棟1F)	学部長・丹根教授 学部長・副学部長・学部長室会議 メンバー他 主席副病院長
12:00～	昼食	外部評価委員及び歯学部長室会議 メンバー, 歯学部評価委員会委員 主席副病院長, 峯特任教員
13:00～ 13:15～	開会 開会挨拶 委員及び出席者の紹介 説明及び質疑応答 ① 学部の全体像 ② 教育 (バイオデンタル教育含む) ③ 研究 ④ その他	司会：丹根教授 高田学部長 司会：丹根教授 ① 説明者：高田学部長 ② 説明者：内田副学部長 ③ 説明者 兼松学部長補佐 二川学部長補佐 ④ 説明者 西村学部長補佐 香西学部長補佐
16:00～	閉会挨拶 閉会 終了	高田学部長 司会：丹根教授

外部評価委員会 会場配置図



川本主査	林(昌)主査	田中主査	田原主査
------	--------	------	------

おわりに

歯学部評価委員会 委員長 丹根一夫

平成 23 年 8 月 30 日に広島大学歯学部の外部評価が行われました。評価に当たられた外部評価委員の皆様には、事前に膨大な資料に目を通していただき、かつ当日は大所高所から貴重な意見を多くいただきまして、書面をお借りしまして、深く感謝申し上げますとともに、皆様方のご努力と温かいご支援に深く敬意を表したいと思えます。

頂きました意見を、「優れているとの評価」と「改善を要するとの評価」に大別し、後者については学部からの改善策等の回答をつけて頂きました。また、各項目を 5 段階評価し、その平均を算出しましたところ、ほとんどの項目が「きわめて優れている」、「優れている」、に該当していることが明確となりました。このことは、広島大学歯学部の理念・目標がきちんと達成されているとともに、これまでに行われてきた教育、研究、社会貢献、国際貢献などが優れた実績を残してきたことを実証する結果であると強く確信いたします。

現在、歯科医学ならびに歯科医療分野はやや苦境に立たされていますが、すぐ先には明るい未来が待ち受けていることを切望しながら、日々の努力を怠らないことが我々に課せられた使命と認識致します。今回の評価結果から、広島大学歯学部は優れた教育による人材育成の任を十分に果たしていることが明確となりました。したがって、これを継続して維持していくことが求められます。構成員の皆様のご協力、ご支援を切にお願いする次第です。

最後となりましたが、資料の作成から評価まで、多くの仕事をお願いしました評価委員会の赤川先生、加藤先生、小川先生、杉山先生、谷本先生、東川先生、ならびに事務担当の林さんに心からお礼申し上げます。